

## 資料・統計

## 2015年中央手術部統計

## Annual Report of Operations in 2015

新潟県立がんセンター新潟病院  
中央手術部

## 1. 消化器外科

		非上皮性腫瘍	0
		食道癌	50
胃		右開胸（腹腔鏡下胃管再建1）	16
胃癌	250	胸腔鏡下	25
Staging laparoscopy	43	左開胸	2
切除		開腹	2
全摘	51	咽頭食道全摘	0
残胃全摘	9	遊離空腸移植	2
噴門側切除	13	食道抜去	0
幽門側切除（開腹）	69	試験開胸	0
幽門側切除（腹腔鏡下）	31	頸部リンパ節郭清	1
PPG（開腹）	4	腹部リンパ節郭清	1
PPG（腹腔鏡下）	3	食道切除後2次の再建術	0
分節切除	0	バイパス術	1
SSD・部分切除	4	胃管癌	0
非切除		胃完全切除（胸骨縦切開）	0
単開腹	1	胃管部分切除	0
バイパス	1	特発性食道破裂	0
その他	0		
再発		肝胆膵	
肝転移切除	1	肝腫瘍	154
卵巣転移切除	0	肝細胞癌	10
リンパ節郭清	0	肝内胆管癌	1
局所切除	1	転移性肝癌	5
腸切除	0	IPNB	1
バイパス	1	その他肝腫瘍	1
人工肛門造設	4	胆道癌	
イレウス		十二指腸乳頭部癌	7
癒着剥離	6	胆嚢癌	7
腸切除	1	胆管癌	9
バイパス	1	膵臓疾患	
人工肛門造設	0	膵臓癌	40
胃瘻・空腸瘻	0	SPN	2
非上皮性腫瘍		I P M C	
GIST	5	I P M A ・ M C N	2
悪性リンパ腫	0	内分泌腫瘍	1
その他	0	膵腫瘍	
その他	1	その他悪性腫瘍	
食道	50	十二指腸癌	4
良性腫瘍	0	GIST	
		小腸癌	1

肝胆膵癌の再発		回盲部切除術	4 (6)
NHL	6	左半結腸切除術	5
その他悪性	4	下行結腸S状結腸切除術	3
その他		右結腸切除術	3
胆石症・胆嚢ポリープ	29	横行結腸下行結腸切除術	3
膵胆管合流異常症		前方切除術	3
肝内結石症	2	低位前方切除術	1
汎発性腹膜炎	2	結腸全摘術	1
ITP		結腸良性	1
ヘルニア		(腹腔鏡下手術)	1)
閉塞性黄疸	11	直腸悪性	99
腹腔内膿瘍		(腹腔鏡下手術)	(65)
腸閉塞	1	低位前方切除術	42
他科疾患		超低位前方切除術	11
その他良性	8	前方切除術	26
術後合併症		直腸切断術	10
術式	155	ハルトマン手術	2
膵頭十二指腸切除術	43	後方骨盤内蔵全摘術	1
膵体尾部切除術	9	経肛門の切除術	2
膵全摘		非切除術 (人工肛門造設術)	5
膵中央切除術		直腸良性	3
肝膵同時切除		経肛門の切除術	3
膵部分切除		再発・転移	51
肝切除	16	肝切除術	28
肝門部胆管癌手術	2	腹膜播種腫瘍切除術	3
胆嚢癌根治術	6	骨盤内腫瘍摘出術	2
胆管癌手術		低位前方切除術	2
腹腔鏡下胆嚢切除術	25	直腸切断術	2
ラジオ波焼灼術	1	小腸部分切除術	1
腹腔鏡肝切除術	2	胃瘻造設術	1
腹腔鏡下肝嚢胞開窓手術	1	腹腔鏡下脾臓摘出術	1
腹腔鏡下膵体尾部切除術		試験開腹術	2
腹腔鏡下脾摘術		人工肛門造設術	2
その他悪性腫瘍切除	6	傍大動脈リンパ節郭清術	1
開腹胆摘術	4	卵巣摘出術	4
総胆管結石石切術	1	腹壁腫瘍摘出術	1
胆道再建	3	肝門部リンパ節郭清術	1
PTCD/PTAD	11	ハルトマン手術	1
生検	7	肝転移	28 (上記原発再発症例に含まれる)
腹腔鏡下生検	1	異時	16 (上記再発症例に含まれる)
その他	16	同時	12 (上記原発症例に含まれる)
PTPE (重複あり)	1	その他の手術	58 (内緊急手術 16)
結腸, 直腸手術症例	321	他科癌・他癌	12
原発	223 (225)	前方切除術	1
結腸悪性	120 (122)	右半結腸切除術	2
(腹腔鏡下手術)	69)	後腹膜腫瘍摘出術	1
右半結腸切除術	58	癒着剥離術	1
S状結腸切除術	35	小腸部分切除術	2
横行結腸切除術	7	人工肛門造設術	1
		洗浄ドレナージ, 人工肛門造設術	1

人工肛門閉鎖術	23
腸閉塞手術（剥離）	1
人工肛門造設術	2
肛門形成術	1
鼠径ヘルニア根治術	1
腹壁再縫合術	1
洗浄ドレナージ，人工肛門造設術	7
洗浄ドレナージのみ	2
洗浄ドレナージ，ハルトマン手術	1
バイパス手術	1
胆嚢摘出術	1
虫垂切除術	1
膿瘍ドレナージ術	1
回盲部切除術，腸間膜リンパ節生検，止血術	各1

2015年の消化器外科における各臓器での入院手術件数は、食道：50件（8件減少）、胃：250件（13件減少）、結腸・直腸：321件（21件増加）、肝胆膵：154例（35件減少）と結腸・直腸以外の臓器では減少していた。一方、鏡視下手術の件数は、食道：25件（9件増加）、胃：34件（5件増加）、結腸：134件（20件増加）、肝胆：28件（8件減少）と総数は増加しているが、結腸・直腸に比して上部消化管（食道・胃）の鏡視下手術の件数及びその割合が低く、積極的に鏡視下手術を取り入れる必要がある。また、結腸・直腸においては直腸癌の件数が伸びており、肛門温存手術や難易度の高い鏡視下手術を希望され当院を紹介されてきており、臨床力の高さを反映しているものと思われる。今後は難易度の高い手術を要求される時代となり、消化器外科手術においては尚一層の技術の向上が必要である。（文責：中川 悟）

2. 乳腺外科

外来手術	
乳腺	12
入院手術	
乳腺	
良性+プローベ	5
乳癌	290
Auchincloss	56
Mastectomy + SLNB	91
Simple mastectomy	7
Lumpectomy + Ax	26
Lumpectomy + SLNB	70
Lumpectomy	38
その他	
局所再発（リンパ節，創）	10
温存乳房切除	11

温存乳房部分切除	
乳房内再発	9
後出血	0
その他	2

【エキスパンダー挿入：上記手術数に算定済み】

1次2期再建	13
（うち1例は温存乳房内再発に対して）	

2013年の原発性乳癌手術数は290例で、昨年とほぼ同じであった。温存療法は約47%に施行されており、一昨年（60%）、昨年（51%）と低下傾向は継続している。腋窩リンパ節手術を施行した243例のうち、センチネルリンパ節生検（SLNB）のみで終了できた症例は161例（約66%）であった。1次2期再建は昨年より5例増えている。乳癌は比較的予後良好であり、術後補助療法のみならず手術療法の個別化も必要とされる時代である。

（集計・文責 神林智寿子）

3. 呼吸器外科

（ ） 胸腔鏡手術

1. 気管（支）疾患	0
2. 肺疾患	254 (103)
2-1  良性肺疾患	4 ( 2)
炎症性偽腫瘍	2 ( 0)
良性肺腫瘍（過誤腫）	1 ( 1)
類上皮肉芽腫	0 ( 0)
その他	1 ( 1)
2-2  悪性腫瘍	250 (101)
2-2-1  原発性肺癌	204 ( 67)
全摘除	3 ( 0)
肺葉切除	156 ( 59)
区域切除	35 ( 4)
部分切除	6 ( 2)
試験開胸	3 ( 1)
審査開胸	1 ( 1)
2-2-2  転移性肺腫瘍	46 ( 34)
結腸直腸癌肺転移	31 ( 23)
子宮	5 ( 4)
骨軟部腫瘍	2 ( 2)
肺癌再発など	3 ( 2)
肝・胆・膵	1 ( 0)
頭頸部癌	1 ( 1)
ほか	3 ( 2)
3. 縦隔疾患	4 ( 1)
3-1  縦隔腫瘍	4 ( 1)
胸腺腫	3 ( 0)
神経性腫瘍	1 ( 1)

3-2 縦隔鏡検査	0
4. 胸膜疾患	13 ( 11)
術後気漏	2 ( 2)
膿胸	8 ( 6)
自然気胸	3 ( 3)
5. 胸壁疾患	0

2015年の手術総数は271例で例年とほぼ同数であった。原発性肺癌手術例は2014年には、前年より若干減少し、数年ぶりに200例以下であったが2015年は203例と200例台に復帰した。

肺癌に対する標準手術である肺葉切除は156例と2014年と同数であったが、このうち完全胸腔鏡下手術は(cVATS)は25例から59例と倍増した。

術前検討で症例を選択して行っており、胸腔鏡手術から開胸に移行した症例はほとんどなかった。  
(文責 吉谷 克雄)

#### 4. 整形外科

##### 腫瘍性疾患

良性軟部腫瘍	
切除術 (切除個数)	154
生検	3
良性軟部腫瘍	計 157
良性骨腫瘍	
切除または搔爬+骨移植	29
切除+人工関節	0
生検	7
良性骨腫瘍	計 36
悪性軟部腫瘍	
広範切除	18
広範切除+皮弁など再建	0
辺縁切除 (術後照射, 化学療法併用)	0
その他	0
生検	4
悪性軟部腫瘍	計 22
悪性骨腫瘍	
広範切除	0
広範切除+人工関節・人工骨頭	1
切除	1
生検	1
悪性骨腫瘍	計 3
転移性腫瘍・脊椎転移性腫瘍	
除圧・後方固定	0

転移性腫瘍	
髄内釘・ピンニング	3
切断	0
広範切除+再建	0
人工骨頭置換術	5
切除・生検	6
転移性腫瘍	計 14

腫瘍性疾患	計 232
-------	-------

##### 非腫瘍性疾患

脊椎疾患	
腰部脊柱管狭窄	0
腰椎椎間板ヘルニア	0
脊椎疾患	計 0

股関節疾患	
人工股関節置換術	1
人工股関節再置換術	1
人工骨頭置換術	7
股関節疾患	計 9

膝関節疾患	
人工膝関節置換術	1
人工膝関節再置換	0
膝関節固定	0
膝関節疾患	計 1

肩・肘・手関節疾患	
腱鞘切開	6
手根管開放術	6
滑膜切除	2
腱移行・腱移植・腱剥離	1
人工肘関節置換術	0
神経移行, 剥離	0
肩・肘・手関節疾患	計 15

足・足関節疾患	
人工関節	0
外反母趾矯正	2
関節固定術	0
足・足関節疾患	計 2

その他	
骨接合術	2
デブリードマン	5
抜釘・異物除去	1
その他	22
その他	計 30

非腫瘍性疾患	計	57
		総合計 289

総手術件数に対する腫瘍性疾患の比率は80.3%であった。腫瘍性疾患のうち良性腫瘍83.2%，悪性骨軟部腫瘍10.8%，転移性腫瘍6.0%であった。  
(文責 佐々木太郎)

5. 脳神経外科

総手術件数	20
1) 腫瘍摘出術	11
悪性腫瘍	11
良性腫瘍	0
2) 脳血管障害	0
血腫除去術	0
他	0
3) 頭部外傷	4
急性頭蓋内血腫	0
慢性硬膜下血腫	4
4) その他	5
オンマイヤー設置	1
生検術	2
他	2

本年度の定位放射線治療は32例であった。  
慢性硬膜下血腫例以外は悪性脳腫瘍治療のための手術である。慢性硬膜下血腫例も1例以外は担癌患者でありがん治療に特化した脳神経外科手術となっている。摘出術例では大学からの手術応援により行われていた。  
(文責 高橋 英明)

6. 婦人科

腹式子宮全摘出術 (+ 附属器摘出術など)	88
子宮筋腫	53
子宮腺筋症	9
子宮頸部異形成	6
子宮頸癌	14
0期	14
I A1期	1
I B1期	1
子宮内膜増殖症	3
転移性子宮癌	1
腔式子宮全摘出術	1
子宮頸癌	1
0期	1
準広汎子宮全摘出	10

子宮頸癌	I A1期	4
	I A2期	1
	I B1期	1
	II A期	1
	IV B期	1
子宮体癌	I A期	1
	II 期	1
広汎子宮全摘出術		17
子宮頸癌	I B1期	6
	I B2期	4
	II A期	2
	II B期	3
子宮体癌	II 期	1
	III C2期	1
子宮体癌手術		54
(原則的に子宮全摘出術+両側附属器摘出術+骨盤リンパ節郭清準広汎子宮全摘以上を除く。子宮肉腫を含む)		
子宮体癌	I A期	33
	I B期	8
	II 期	2
	III A期	2
	III B期	0
	III C1期	1
	III C2期	3
	IV A期	0
	IV B期	2
子宮肉腫	I B期	2
	IV B期	1
悪性子宮付属器腫瘍手術 (原発性)		33
(原則的に子宮全摘出術+両側附属器摘出術+骨盤リンパ節郭清+大網切除術)(卵管癌, 腹膜癌を含む)		
卵巣癌	I a期	4
	I b期	2
	I c期	8
	II a期	1
	II b期	1
	II c期	1
	III a期	1
	III b期	1
	III c期	3
	IV a期	1
	IV b期	6
卵管癌	I a期	2
	II b期	1
	IV b期	1
卵巣境界悪性腫瘍手術		4

子宮頸部円錐切除術	95
子宮頸部異形成	60
子宮頸癌	0期 33
	I A1期 1
	I B1期 1
<hr/>	
LEEP (Loop Electrocautery Excision Procedure)	0
<hr/>	
その他の悪性腫瘍手術	22
外陰・膣悪性腫瘍手術	3
再発癌手術	4
試験開腹術	2
初回不十分手術後の追加切除術	4
子宮内膜全面搔爬	子宮体癌 4
	子宮内膜増殖症 2
	子宮内膜ポリープ 1
	尿管癌 1
子宮頸管搔爬	1
<hr/>	
附属器摘出術	33
(附属器腫瘍摘出術を含む)	
<hr/>	
子宮筋腫核出術	10
子宮腺筋症核出術	1
<hr/>	
子宮脱・膣脱	5
膣式子宮全摘出術	3
膣脱手術	2
<hr/>	
腹腔鏡下手術	30
子宮筋腫核出術	1
良性卵巣腫瘍	26
乳癌既往症例の付属器摘出	3
<hr/>	
経頸管的切除 (TCR)	8
子宮筋腫	1
子宮内膜ポリープ	4
APAM	3
<hr/>	
子宮内容除去術	1
稽留流産	1
胞状奇胎	0
<hr/>	
その他	12
C Vポート抜去	6
骨盤内膿瘍手術	3
術後腹腔内出血時の再開腹手術	1
経管拡張術	1
尖圭コンジローマ レーザー焼灼	1

計	424
---	-----

2015年の手術件数は424件であり、前年よりやや増加した。うち272件は悪性腫瘍または関連疾患に対する手術であり、全体の約2/3を占めていた。

(柳瀬 徹 記)

## 7. 泌尿器科

副腎腫瘍の手術	(小計4)
腹腔鏡下副腎摘出術	3
副腎褐色細胞腫摘出術	1
腎腫瘍および腎の手術	(小計85)
根治的腎摘出術	19
腹腔鏡下根治的腎摘出術	4
腎部分切除術	31
腹腔鏡補助下小切開腎部分切除術	3
腎腫瘍生検	4
経皮的腎瘻造設術 (PNS)	23
腎その他	5
腎盂・尿管腫瘍および腎盂・尿管の手術	(小計128)
腎尿管全摘出術	24
経皮的腎盂腫瘍切除術	1
尿管カテーテル法 (留置を含む)	101
尿管狭窄拡張術	1
尿管損傷修復術	1
膀胱腫瘍および膀胱の手術	(小計329)
膀胱全摘出術 + 回腸導管造設術	11
膀胱全摘出術 + 尿管皮膚瘻造設術	3
膀胱全摘出術 + 回腸利用新膀胱造設術	1
経尿道的膀胱腫瘍切除術 (TURBT)	309
膀胱内血腫除去・止血術	3
膀胱瘻造設術	1
膀胱憩室切除術	1
尿道腫瘍および尿道の手術	(小計8)
内尿道切開術	8
前立腺腫瘍および前立腺の手術	(小計432)
前立腺生検	391
前立腺全摘出術	28
経尿道的前立腺切除術	3
両側精巣摘出術 (去勢術)	10
精巣腫瘍および精巣の手術	(小計13)
高位精巣摘出術	11
後腹膜リンパ節郭清	2
陰茎腫瘍の手術	(小計5)
陰茎部分切除術	3
陰茎その他	2
その他の後腹膜・骨盤内腫瘍の手術	(小計2)
骨盤内腫瘍摘出術	1

骨盤内腫瘍生検	1
その他	(小計5)
総計	1011手技 (936件)

2015年の手術件数は936件(1011手技)で、前年度とほぼ同程度であった。近年と同様、悪性腫瘍の手術とそれに関連する病態に対する手術がそのほとんどを占めていた。(文責 小林 和博)

## 8. 皮膚科

悪性腫瘍	
悪性黒色腫	26
基底細胞癌	86
有棘細胞癌	49
ボーエン病	29
日光角化症	27
外陰パジェット病	6
皮膚付属器癌	5
悪性軟部腫瘍	4
悪性リンパ腫	1
転移性皮膚癌	8
他臓器癌リンパ節転移	2
血管肉腫	0
メルケル細胞がん	1
小計	244
良性腫瘍・その他	
母斑細胞母斑	129
上記以外の母斑	13
表皮嚢腫(粉瘤)	111
脂漏性角化症	70
脂肪腫	49
皮膚線維腫・軟線維腫	40
良性皮膚付属器腫瘍	13
血管腫	23
ケラトアカントーマ	12
石灰化上皮腫	24
慢性膿皮症	9
良性神経系腫瘍	5
リンパ節生検	24
その他	71
小計	593

悪性腫瘍の手術件数は2014年に比べて40件ほど減少していたが、良性腫瘍・その他の手術は30件以上増加していた。皮膚腫瘍患者の高齢化は年々顕著となっており、入院自体が困難な患者が増えている。迅速かつ安全な日帰り手術の運用を心掛けている。(文責 竹之内辰也)

## 9. 眼科

水晶体再建術: 眼内レンズを挿入する場合	137
水晶体再建術+緑内障手術	2
濾過手術を含む緑内障手術	3
角膜縫合術	2
悪性腫瘍を含む眼瞼結膜手術	20
硝子体注射	17
眼瞼下垂	1
涙管チューブ挿入術	1
合計	183

相変わらず1名による手術体制であるが、2014年の手術件数は、眼底三次元画像解析装置の購入により、抗VEGF抗体の硝子体注射の件数が増えて183件であった。手術の種類が多岐となり、全身麻酔下の腫瘍摘出等、難易度の高い症例も多く、外傷を含めた他院から紹介される手術対象患者の比率が増大傾向にある。

一方で、器械の老朽化が著しく、機種更新をすることによって、さらなる手術件数の増加が見込まれる。(文責 原 浩昭)

## 10. 頭頸部外科

甲状腺・副甲状腺	
副甲状腺腫瘍摘出	2
縦隔内甲状腺腫(濾胞腺腫)胸骨正中切開	1
甲状腺良性腫瘍半切	23
甲状腺癌(半切, D1郭清)	49
甲状腺癌(半切, 側頸部郭清)	2
甲状腺癌(全摘)	10
甲状腺癌(全摘, 頸部郭清)	2

小計 89

### 頸部

頸部腫瘍生検	22
頸部腫瘍切除	1
頸部郭清術のみ (原発操作に付属する頸部郭清)	11 (28)

小計 62

### 気管・喉頭

気管切開	8
プロボックスボイスプロテゼ留置術(Vega)	2
硬性鏡下喉頭腫瘍生検	21
喉頭腫瘍LASER切除	3
喉頭全摘	2

	小計	36
口腔・口唇		
舌癌舌分切除		3
舌癌舌分切除, 顎二腹筋弁再建, 頸部郭清		1
舌亜全摘, 腹直筋皮再建, 頸部郭清		1
口腔癌再発(臼後部)切除, 腹直筋皮弁再建, 頸部郭清		1
口腔癌(硬口蓋)切除, 前腕皮弁再建, 頸部郭清		1
	小計	7
咽頭		
中咽頭検査・生検		2
中咽頭腫瘍切除		1
下咽頭喉頭全摘, 頸部郭清, 空腸再建		1
喉頭全摘下咽頭部分切除, 頸部郭清, 大胸筋皮弁再建		3
喉頭全摘下咽頭部分切除, 頸部郭清, 前腕皮弁再建		1
佐藤式穹曲鏡下咽頭鏡検査・生検		11
	小計	19
鼻副鼻腔		
鼻副鼻腔腫瘍生検		3
鼻腔腫瘍切除		1
	小計	4
大唾液腺		
耳下腺良性腫瘍		13
顎下腺腫瘍切除		1
	小計	14
その他		
経口的咽喉頭部分切除術		1
顔面腫瘍切除		4
CVポート抜去		1
	小計	6
	合計	237

手術総数は2010年167件, 2011年236件, 2012年261件, 2013年265件, 2014年212件, 2015年237件, 若干の増減はあるが横ばい状態である。ただし, 最近では紹介患者数が増えているため2016年は手術件数の

増加が予測される。

【甲状腺癌】甲状腺症例は4年前と比較して手術件数が倍増していた。県内全域他科の先生方からご紹介が多くなってきたためである。技術面では, Inter Operative Nerve Monitoring により反回神経温存に務め, Ligasure Small Jawの導入で低侵襲手術を継続している。近くに内視鏡下甲状腺腫瘍切除の導入も目指している。

【機能温存手術】当科の特色のひとつに喉頭機能温存手術がある。喉頭垂直部分切除, 喉頭温存下咽頭部分切除, 喉頭亜全摘 (CHEP:Cricohyoidepiglotomy), プロボックス手術が可能である。プロボックス手術は元議員の与謝野馨氏も受けた手術として有名であるが, 多職種連携によるリハビリテーションが大事とされる。2013年春から言語聴覚士の加入と, 近年は外来スタッフのかかわりにより患者満足度を高めている。さらに, 新しい機能温存手術として経口的咽頭癌切除を開始した。これは, 近い将来の手術支援ロボットDaVinci導入を見据えての活動である。

【総評】手術以外にも頭頸部癌の放射線化学療法では口腔ケア, 胃瘻増設, オピオイドベースの疼痛管理, 放射性皮膚炎管理プログラムなどの多彩な支持療法により安定した治療を可能にしている。さらに, 県内主要施設, 県外施設との多施設共同研究は継続中である。当科はこれからも新潟県頭頸部癌治療のリーダーとして, 県内各施設とコラボレーションしながら更なる発展を続ける責務がある。

(文責 佐藤雄一郎)

## 11. 形成外科

悪性腫瘍およびそれに関連する再建	51
乳房再建用エキスパンダー挿入	22
乳房インプラント挿入	9
縫合	2
植皮	4
有茎皮弁	4
遊離皮弁	9
腹腔内動脈再建	1
皮膚腫瘍	3
切除術	3
瘢痕, 瘢痕拘縮, ケロイド	14
瘢痕拘縮形成術	14
その他	11

眼瞼下垂症手術	5
その他	6
計	79

---

2013年10月から常勤化以降、手術件数は年々増加いたしてはおりますが、まだ少数です。他科との手術は30件であり若干増加いたしました。乳房再建関連手術が36件と手術の45%以上を占めています。引き続き他科との手術ならびに乳房再建等に積極的に取り組み、ご紹介頂いた患者さんにはご納得いただけるよう対応したいと考えています。2015年8月からは手術枠を固定頂き、ご尽力頂きました関係各位に感謝申し上げます。(文責 坂村 律生)